

令和1年度のインフルエンザの有病者数、医療費の調査及び 予防接種とインフルエンザ罹患の関連調査に関する報告

令和2年9月28日 東京屋外広告ディスプレイ健康保険組合

■ インフルエンザの有病者数、医療費について

令和1年10月～令和2年3月診療分での動向調査をしました。(図1.を参照)
今季のインフルエンザに罹患のピークは、令和1年12月となっているのがわかります。

平成30年度、令和1年度での各々の10月～翌年3月までのインフルエンザの有病者数及び医療費は下記のようになります。

	平成30年度	令和1年度
有病者数	15,127人	11,928人
医療費	130,808,600円	97,765,756円

前年度に比較すると、令和1年度は有病者数、医療費共に20%程減少となっています。

■ 予防接種とインフルエンザの罹患との関連調査報告

インフルエンザ罹患のピークであった令和1年12月診療分と前年度のピークであった平成31年1月診療分とで、予防接種と罹患の関係を調査しました。

☆ 予防接種の有無によるインフルエンザ罹患患者数及び罹患率を調査

予防接種を受けたグループと受けなかったグループとで、インフルエンザの罹患率を本人家族合計で算出すると、下記のようになります。

	平成30年度 平成31年1月診療	令和1年度 令和1年12月診療
予防接種を受けたグループ	予防接種を受けた人数	15,192人
	インフルエンザ罹患患者数	1,586人
	罹患率	10.44%
予防接種を受けてないグループ	予防接種を受けてない人数	63,169人
	インフルエンザ罹患患者数	6,295人
	罹患率	9.97%

これからすると、今年度も昨年度と同様に予防接種を受けたグループの方が、若干罹患率が高くなっておりませんが、それ程顕著な差異はないと言えるでしょう。

☆ 年齢階層別の予防接種の有無によるインフルエンザ罹患患者数及び罹患率を調査

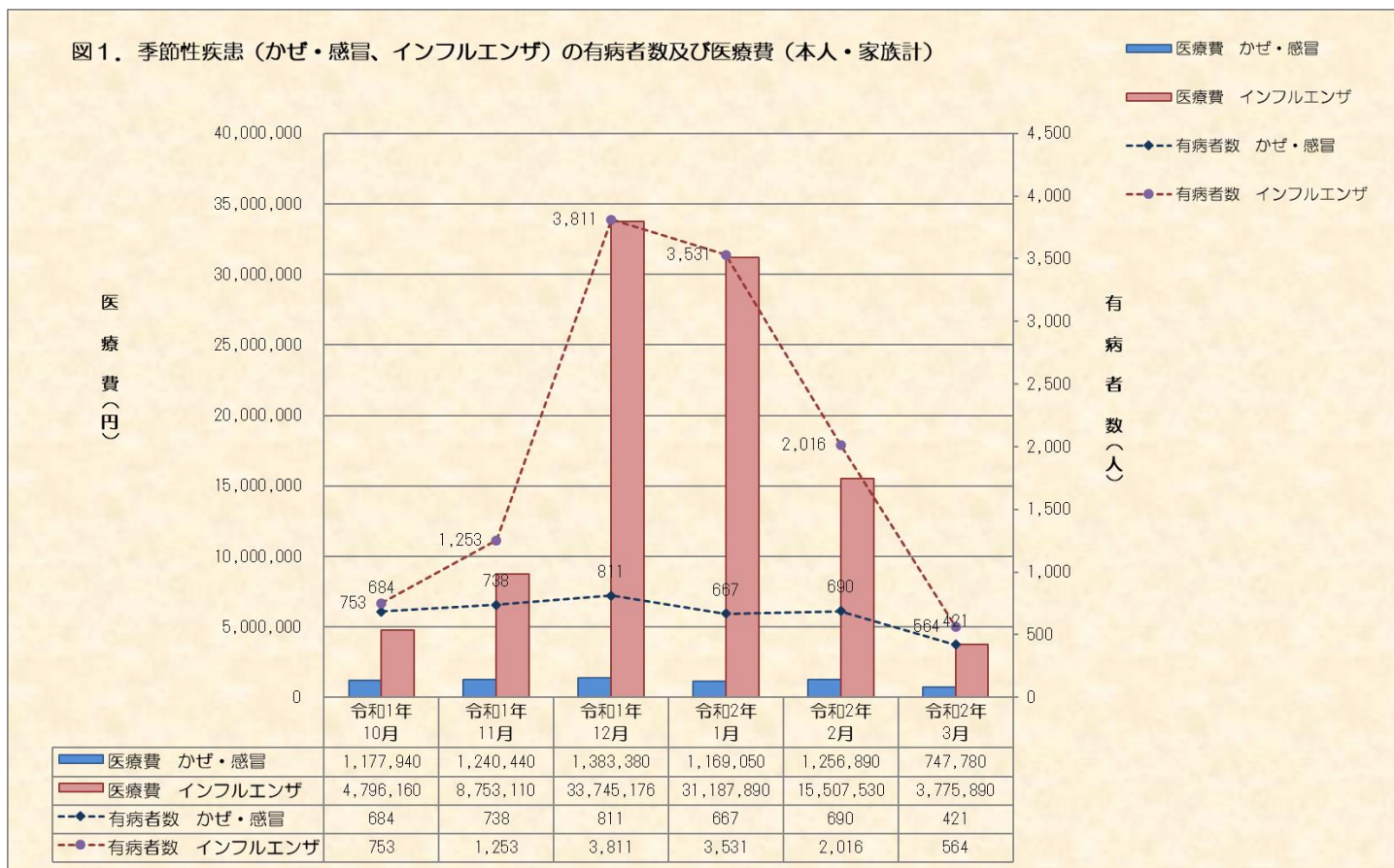
次頁の図5を参照しますと、インフルエンザに罹患する割合が高いのは、0～14歳の年齢層が際立って高いのがわかります。又、予防接種の実施有無とインフルエンザ罹患の関係については、一部20-24歳の年齢階層において、予防接種を受けたグループの方が罹患率が若干低いという傾向は見られましたが、全体でみると昨年と同様に有意な相関は認められませんでした。

■ 今回の調査でわかった事

今季のインフルエンザ罹患のピークは、令和1年12月であったことがわかります。
又、「予防接種の実施有無とインフルエンザ罹患については、一部20-24歳の年齢階層において予防接種を受けたグループの方が罹患率が若干低いという傾向は見られますが、全体的にみると有意な相関は認められるとまでは言えません」ということとなります。
今回の調査を見てわかるように、予防接種を受けた方もインフルエンザに相当数罹患しておりますのでその意味では予防接種を受けたからと言って安心せずに健康に留意することが大切といえます。

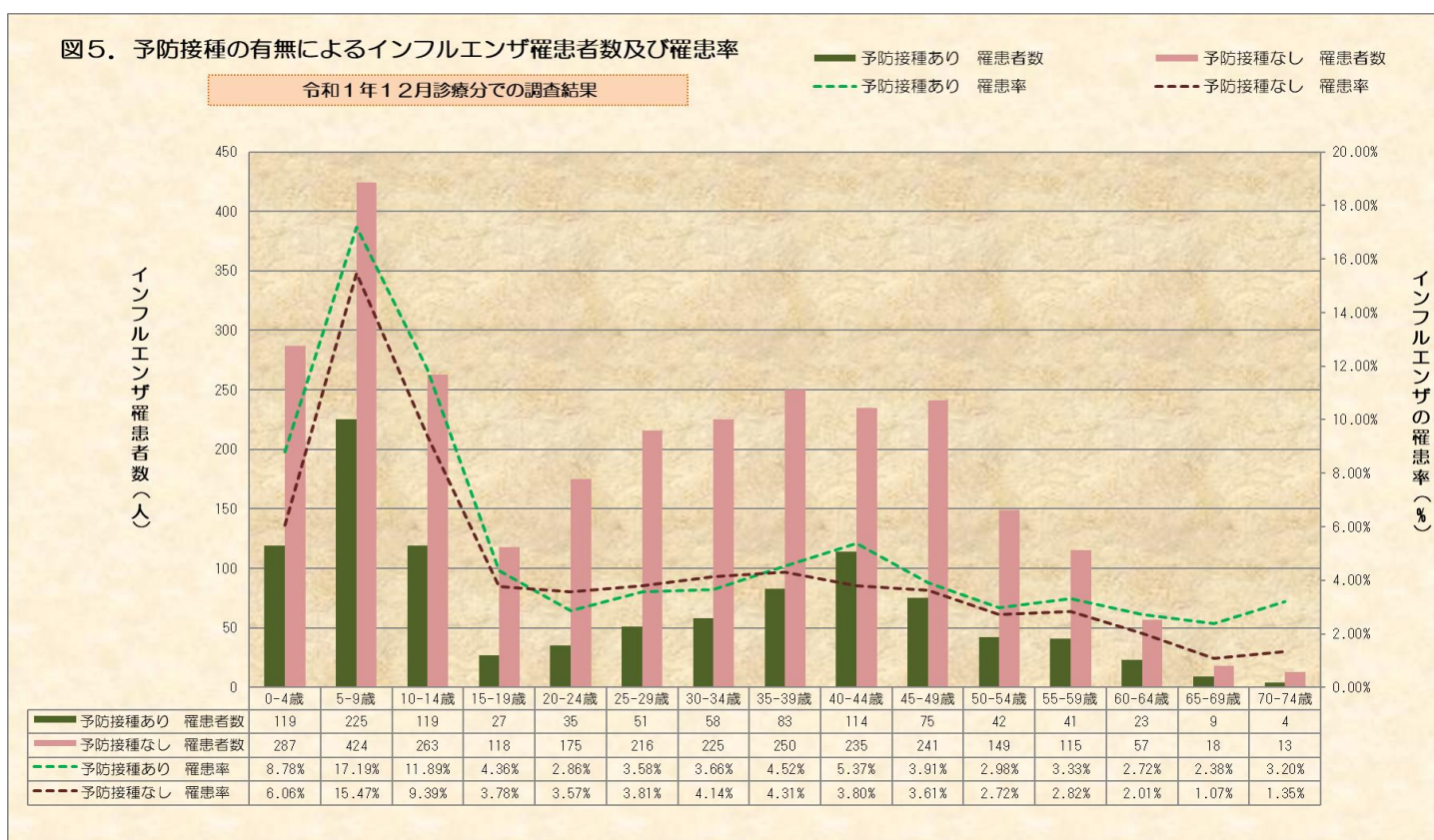
以上

季節性疾患（かぜ・感冒、インフルエンザ）の有病者数及び医療費（本人・家族計）
 今季のインフルエンザの罹患のピークは、令和1年12月となっているのがわかります。



予防接種の有無による年齢階層別のインフルエンザ罹患患者数及び罹患率

令和1年12月診療分で、予防接種の有無別にインフルエンザの罹患患者数及び罹患率を年齢階層別に表示したものです。罹患患者数及び罹患率共に、乳幼児から中学生位までが高くなっています。予防接種有無での罹患率には、大きな差異は見られません。



平成26年～平成31年度 インフルエンザの有病者数、医療費の調査および、 予防接種のグループ別罹患率等の報告

■インフルエンザの有病者数、医療費について

過去6カ年のインフルエンザの罹患者が多い年は、平成29年（2017）となっています。

また、医療費も有病者数に比例して増減しているのがわかります。

やはりワクチンの効果により、流行する年としない年で大きな差があるようです。

2014年と2017年で比べると約1.8倍の差になるのは驚きです。

平成26年度～平成31年度のインフルエンザ有病者数および医療費（本人・家族計）

